

(科目名) 京都創造論	(群) 拡大科目群 (系) 地域交流・貢献科目
(所属部局) 教育学研究科 (職名) 教授 (氏名) 高見 茂	(開講期) 前期 (授業形態) 講義 (対象回生) 1-2 回生 (対象学生) 全学学生
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>大学の持つ教育・研究機能は、地域社会の振興・発展に重要な役割を持つ。たとえばオックスフォード大学は、その教育・研究を通じて地元都市の文化、経済、環境、初等・中等教育等を支える重要なアクターとして機能し、グローバルであると同時にローカルな大学でもある。「京都の未来を考える懇話会」は、30年後の京都の「ありたい姿」(ビジョン)として「世界交流首都・京都」を提案し、そしてそれを支える3本柱の1つに「大学のまち・京都」を掲げた。大学と都市はいまや一体的関係にあり、本学もまたオックスフォード大学と同様に、地域の文化、産業、環境、教育等に関する知の拠点であることが求められている。本講義では、世界の主要大学と地域社会の関係を文化、産業、環境、教育等の側面から検討し、大学はその教育・研究機能を通してどのように地域開発・振興に貢献しているかを分かり易く解説する。そしてこれを踏まえて、本学を核とする京都の大学群が、京都の文化、産業、環境、教育振興、地域格差、政治・行政等の課題解決にどのように貢献しているのかを学ぶ。京都という独特な土地柄(日本文化、伝統、歴史、芸術、地域格差の集積地)で地域のことを学ぶことは、日本全国の地域課題を学ぶことであり、またグローバル人材として必要な素地も獲得することができる。大学と地域課題の学びを通して、京都というローカルな視点とグローバルな視点を併せ持つグローバル視点の重要性を体得させ、京都から世界に羽ばたく複眼的思考のできる人材の育成を試みたい。</p> <p>本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(京都学教育プログラム)の一環として開講されるものである。その目的は、単に京都に関する事柄を学ぶのではなく、京都が抱える諸課題を手掛かりに、わが国や世界の未来を想像(創造)できるための基礎を培うことにある。</p>	
<p>(授業計画と内容)</p> <p>京都が抱える諸課題を現実の声を通して学ぶために、「京都の未来を考える懇話会」の構成員である七賢人(山田啓二京都府知事、門川大作京都市長、本学松本総長、立石義雄京都商工会議所会頭、柏原康夫京都府・京都市観光協会会長、池坊由紀華道家元池坊次期家元、白石方一京都新聞社主)をゲストスピーカーとして招聘し、一部講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.世界の大学と地域 <ol style="list-style-type: none"> 1) 英国オックスフォード大学の場合 2) 英国ケンブリッジ大学の場合 3) ロンドン大学等と初等中等教育の学力・進学率向上策 4) 米国ボストン地域の大学群と地域 5) まとめ 2.京都の大学群と京都 <ol style="list-style-type: none"> 1) 京都の将来推計－30年後の京都 2) 地方分権と京都一道州制の導入、京都市と京都府の関係 3) 京都地域の地域格差－南北問題 4) 京都の産業振興－産学連携(京都大学の貢献:ベンチャー企業から世界的企業へ) 	

- 5) 京都の不思議—ものづくりの素地
- 6) 京都の文化・芸術
- 7) 京都の伝統—京料理、おもてなし
- 8) 京都の科学・教育
- 9) 地域課題と大学の貢献—国内他地域事例との比較
- 10) まとめ

(成績評価の方法・基準)

講義テーマに関わる小論文試験をもって成績評価を行います。授業内容を踏まえた上で、わが国や世界の今後のあり方について、受講生自身が議論を展開できるかどうかの評価の基準となります。

(履修要件)

特になし

(教科書)

使用しない(授業中にレジュメ、資料等を配付する。)

(参考書)

授業中に紹介する